

寄宿舎便り

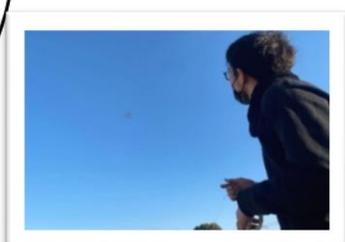


令和6年2月16日発行
第14号
文責 北川 尚裕



凧あげを行いました！！

寄宿舎新年最初の行事は「凧あげ」です。中学生も高校生も童心に返り、みんなで凧あげを楽しみました。凧上げに一番必要な要素は、もちろん『風』です。今年度は風に恵まれ、風を利用しぐんぐん高く上がる凧の、糸を引く強さを手に感じながら、天高く凧を飛ばしました。凧上げは、高く上がるほど願いが天に届き、元気に育つと言われており、また、立春の時季に空を見上げることは、健康にいいという意味があるそうです。みんなの健康と願いがきっと天へ届くと思います。(田川)



九盲研に行ってきました！

11月17日（金）に宮崎明星視覚支援学校であった九州地区盲学校教育研究会に行ってきました。参加した寄宿舎教育情報交流会、分科会「生活」では、各校の取組、行事等の情報交換を行ってきました。分科会では、沖縄盲学校の寄宿舎から「簡単、安全、安い、美味しい食事作り」を趣旨とした調理に関する研究発表があり、麻婆豆腐の素などのレトルト食品やレンジ対応のラーメンどんぶりや熱くならない電子レンジ用のトレーの紹介などがありました。紹介された道具や調理方法は、今後、本校寄宿舎で調理をしていく際にも参考にしていきたいと思います。今回の研究会で各寄宿舎の幅広い取組を知ることができ沢山のことを学ぶことができました。

今後の指導、支援に活かしていきたいと思います。(佐藤)



職員研修を行いました

11月に理療科の藤川先生に寄宿舍職員向けに講話をしていただきました。藤川先生は進路指導を担当し、視覚障がい者の進路選択や福祉制度の話、その他自身の経験から使って便利だった用具などの紹介がありました。

福祉制度では、同行援護の他、他県にはボランティア団体を作っている「視覚障がい者の外出支援ネットワーク(JBOS)」があり、旅行や出張などで利用できます。その他、便利な用具として、視覚障がい者のために開発された用具は値段が高く、一般に流通している物にも音声が出て使いやすい物があるということ、藤川先生自身も百均の便利商品や高齢者用の音声が出るスケールを使用し、点字や音声機能がないものでも、タイマーやアプリを併用して工夫しながら利用されています。

また、進路実現に必要な力として、「挨拶、返事ができること」「人の話が聞けること」「一人でできることが多ければ多いほど良い」「助けを求められる力が必須」という話がありました。藤川先生も自分から積極的に店員さんなど周囲の方に援助を依頼されています。お話の中で、小さい頃からいろいろなことを経験することが大事なのだということと、周囲の人に援助を求めるのは少し勇気が必要だけど、その少しの勇気で世界が広がるという内容が印象的でした。積み重ねながら向上できる部分、人に頼った方が上手くいく部分は人それぞれです。その部分をしっかり見極め、今後も必要な支援、指導を行っていきたいと思っています。(井野)



荷物持ち帰り御協力のお願い

本校寄宿舍は、単年度入舎のため、3月22日(金)修了式をもちまして退舎となります。できるだけ修了式の日までに、全荷物搬出の御協力をお願いいたします。ご都合で難しい場合は、職員までご相談ください。(管)



熊本県立盲学校イメージキャラクター